

6	単元名	数の数え方
---	-----	-------

## 1 指導目標

- (1) 数の数え方を覚えさせる。
- (2) 数える対象によって、数え方の単位（数詞）が異なることを理解し、日常生活の中で適切に使用できるようにする。

## 2 指導内容

- (1) 1から30までの数の数え方を覚え、使わせる。
- (2) 100から90000までの数の数え方を覚え、使わせる。
- (3) 数える対象によって単位（数詞）が異なることを理解させる。
- (4) 数詞の法則性を理解させ、それぞれの数え方を覚えさせる。

## 3 指導計画

時間	主な学習内容	指導上の留意点
1	<p>○28 ページを見ながら、1から10までの言い方を聞き、指導者について復唱する。</p> <p>○ノートに数の読みを平仮名で書く。</p> <p>○ノートに書いた数字と読みを見ながら、指導者について復唱する。</p> <p>○11から30までの言い方を聞き、指導者について復唱する。</p> <p>○ノートに数の読みを平仮名で書く。</p> <p>○ノートに書いた数字と読みを見ながら、「位」を理解し、指導者について復唱する。</p> <p>○29 ページを見ながら、百、千、万の位の言い方を聞く。</p> <p>○ノートに数の読みを平仮名で書く。</p> <p>○ノートに書いた数字と読みを見ながら、指導者について復唱する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者が1から10の平仮名表記を指さしながら読む。</li> <li>・音と文字を正確に連動させるため、板書する。(例 1…いち)</li> <li>・数字と平仮名表記を交互に指さしながら読む。</li> <li>・指導者が11から30の平仮名表記を指さしながら読む。</li> <li>・ゴシック体と下線部分は、「位」の概念を理解させるために、板書の際、色を変えると分かりやすい。</li> <li>・数字と平仮名表記を交互に指さしながら読む。</li> <li>・指導者が「数2（100から）」の平仮名表記を指さしながら読む。</li> <li>・板書の際、ゴシック体の部分は色を変えることによって、特別な表現として意識させる。</li> <li>・数字と平仮名表記を交互に指さしながら読む。</li> </ul>
2	<p>○物を数えるとき、数える対象によって単位が異なることを理解する。(88 ページ)</p> <p>○「枚、台、冊、個、羽、回」で数える対象を理解する。</p> <p>○ノートに数詞の読みを、平仮名で書く。</p> <p>○指導者について復唱する。</p> <p>○「匹、杯、本、足」で数える対象を理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童・生徒の身の回りの物を使い、数える対象によって単位が異なることを気付かせる。</li> <li>・絵だけではなく、実物を見せながら数える。</li> <li>・「1枚…いちまい」と板書する。</li> <li>・絵だけではなく、実物を見せながら数える。</li> </ul>

	<p>○ノートに数詞の読みを平仮名で書く。</p> <p>○指導者について復唱する。</p> <p>○「ひとつ、ひとり」で数える対象を理解する。</p> <p>○ノートに数詞の読みを平仮名で書く。</p> <p>○指導者について復唱する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「三、六、八、十」の数で単位が変化する部分を色を変えて書く。</li> <li>・上記の法則を意識して読む。</li> <li>・絵だけではなく、実物を見せながら数える。</li> <li>・「いくつ」は特別な表現として意識して板書する。</li> <li>・指導者は、ゆっくり読む。</li> <li>・家庭学習用にコピーして配布する。次回、ワークシートテストを行う。</li> </ul>
--	---	--

## 4 指導のポイント

- (1) 指導者がそれぞれの法則性を認識する。11から30の数は、十の位の後に一の位が付く。
- (2) 板書する際、テキストの中のゴシック体の部分、下線の部分は色を変え、視覚的に法則を捉えやすくする。
- (3) 数詞の「枚」「台」「冊」「個」「羽」「回」は、ほとんど数字＋単位である。「匹」「杯」「本」「足」は、『3』では、数字の後ろにつく単位が濁音に、『1、6、8、10』では、促音＋半濁音になる。
- (4) 「いくつ」は、他の単位とまったく数え方が異なっているため、児童・生徒にとって理解しにくい。リズムよく繰り返し言うことで、覚えさせる。
- (5) 数の数え方及び数詞は読み方を指導するとともに、必ず読みを平仮名で書かせ、音と文字が連動するよう指導する。
- (6) 日常生活において使用頻度が高いので、日頃から意図的に指導を積み重ねることが大切である。

## 5 期待される成果等

- (1) 数の数え方を覚えることで、算数や数学の授業に参加しやすくなる。また、四則計算の記号（＋、－、×、÷、＝）の読みと意味も確認する。
- (2) 時間や日付の学習に発展させることができ、学習の幅が広がる。

## 6 補充・発展的な学習課題例

- (1) 千の位までの数字を多数作り、無作為に読ませて、平仮名で書かせる。  
例 4096…よんせんきゅうじゅうろく 154…ひゃくごじゅうよん
- (2) 四則計算（＋、－、×、÷、＝）を使って、日本語での読み方の定着を図る。  
例  $24 + 39 = 63$   
(にじゅうよん たす さんじゅうきゅう は ろくじゅうさん)

## 7 実践例

○中国語を母語とする生徒

漢字で数が理解できるため、平仮名表記と発音の定着が遅れてしまった。特に、拗音と半濁音、促音に変化する部分の定着が難しかった。しかし、数詞の変化に対する一定の法則を教えることにより、理解させることができた。日常生活では、使用頻度が少ないものもあるので、定期的に復習することで、確実に定着させたい。

## かず 数 1 (1から30)

★1から30までの数を、正しく読んで覚えよう。

1	いち	11	じゅう いち	21	に じゅう いち
2	に	12	じゅう に	22	に じゅう に
3	さん	13	じゅう さん	23	に じゅう さん
4	し/よん	14	じゅう し/じゅう よん	24	に じゅう し/に じゅう よん
5	ご	15	じゅう ご	25	に じゅう ご
6	ろく	16	じゅう ろく	26	に じゅう ろく
7	しち/なな	17	じゅう しち/じゅう なな	27	に じゅう しち/に じゅう なな
8	はち	18	じゅう はち	28	に じゅう はち
9	く/きゅう	19	じゅう く/じゅう きゅう	29	に じゅう く/に じゅう きゅう
10	じゅう	20	に じゅう	30	さん じゅう

## かず 数 1 (1から30)

★1から30までの正しい言い方を、ひらがなで書こう。

1		11		21	
2		12		22	
3		13		23	
4	/	14	/	24	/
5		15		25	
6		16		26	
7	/	17	/	27	/
8		18		28	
9	/	19	/	29	/
10		20		30	

## かず 数 2 (100から)

★100以上の数を正しく言えるようにしよう。

100	ひゃく	1000	せん	10000	いち まん
200	に ひゃく	2000	に せん	20000	に まん
300	さん <b>びゃく</b>	3000	さん <b>ぜん</b>	30000	さん まん
400	よん ひゃく	4000	よん せん	40000	よん まん
500	ご ひゃく	5000	ご せん	50000	ご まん
600	ろっ <b>びゃく</b>	6000	ろく せん	60000	ろく まん
700	なな ひゃく	7000	なな せん	70000	なな まん
800	はっ <b>びゃく</b>	8000	はっ せん	80000	はち まん
900	きゅう ひゃく	9000	きゅう せん	90000	きゅう まん

## かず 数 2 (100から)

★100以上の数の正しい言い方を、ひらがなで書こう。

100		1000		10000	
200		2000		20000	
300		3000		30000	
400		4000		40000	
500		5000		50000	
600		6000		60000	
700		7000		70000	
800		8000		80000	
900		9000		90000	